

峰見 一輝氏（共同発表者：広瀬友紀氏、伊藤たかね氏）

発表タイトル: 「日本語 wh 疑問文における文法性の錯覚と記憶処理—文読解中の視線計測実験—」

本発表は中央埋め込み補文を含む主節 wh 疑問文をめぐって、文法性の錯覚が作業記憶への探索を駆動するかを視線計測によって検証した結果を報告している。ここで問われている研究課題は、文解析器と文法が独立した異なる認知システムなのか（「独立仮説」：Townsend and Bever 2001）、それとも同じ認知システムなのか（「同一仮説」：Lewis and Phillips 2015）である。本発表では、文法性錯覚に基づく読みの促進が非文においてのみ観察されたと報告され、文解析器が文法性によって異なるふるまいを見せる点で「同一仮説」を支持するとの結論が出された。促進と抑制のロジックがやや分かりにくかったが、文法性の錯覚の実時間処理を正文と非文の比較から検証した点に新規性があり、また、論立て方が周到で、発表もたいへん落ち着いていて着実だった点に高い評価を与えられる。